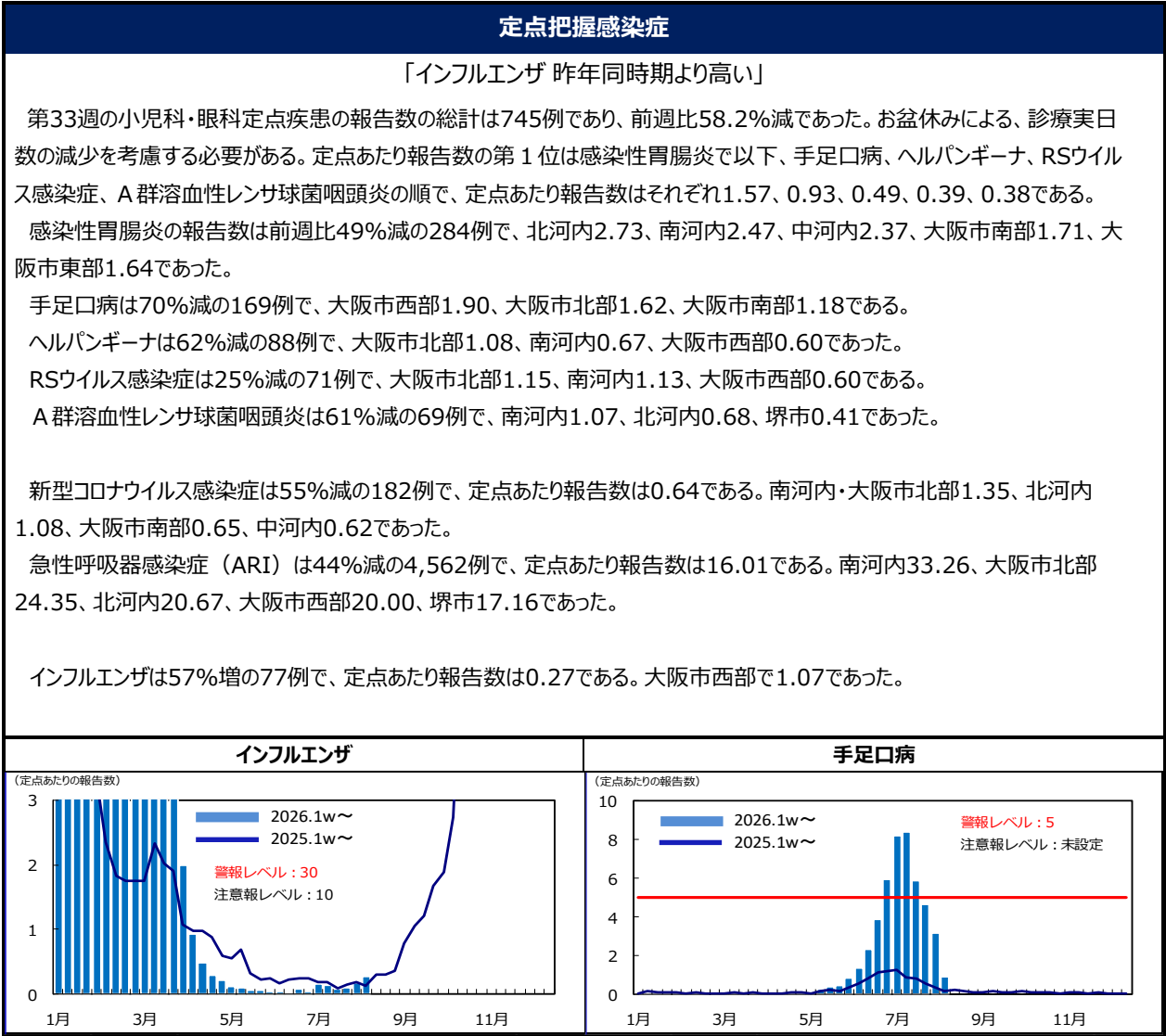


大阪府感染症発生動向調査週報（速報）
2026年 第33週（8月10日～8月16日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警戒レベル・注意レベルの数値は参考値

表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第33週8月10日～8月16日）

第33週の順位	第32週の順位	感染症	2026年 第33週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第33週の 定点あたり 報告数	2026年第33週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	2	感染性胃腸炎	1.57	49%減	1.55	1歳_21%
2	1	手足口病	0.93	70%減	0.14	1歳_43%
3	3	ヘルパンギーナ	0.49	62%減	0.76	2歳_30%
4	5	RSウイルス感染症	0.39	25%減	0.57	1歳_46%
5	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.38	61%減	0.33	5歳_16%
参考		新型コロナウイルス感染症 （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	0.64	55%減	3.38	1-4歳_32%
参考		急性呼吸器感染症 （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	16.01	44%減	17.24	1-4歳_41%
参考		インフルエンザ （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	0.27	57%増	0.13	20歳以上_48%

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（[定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報](#)）をご覧ください。

第33週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期において、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

[腸管出血性大腸菌感染症（国立健康危機管理研究機構）](#)

[腸管出血性大腸菌感染症（大阪健康安全基盤研究所）](#)

年別累積報告数(大阪府)

週	2022	2023	2024	2025	2026
01	0	0	0	0	0
10	10	15	20	15	20
20	30	40	50	40	50
30	100	120	140	110	130
40	180	200	220	200	220
51	210	230	240	240	250

表 2. 大阪府全数報告数（2026年 第33週8月10日～8月16日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	10	1	2	3	1	2		1		118
4 類感染症	デング熱	1		1							8
	レジオネラ症	1	1								103
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2		1						1	63
	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1		171
	水痘（入院例）	1				1					46
	梅毒	7		1		1	2			3	815
	百日咳	1					1				204
結核 (2026年6月分)	結核 新登録患者数：54名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 19名) (府内累積報告数 390名、内 肺・喀痰塗抹陽性 127名)										

(2026年8月18日 集計分)